

AR(拡張現実)アプリ「攻略 松山城」

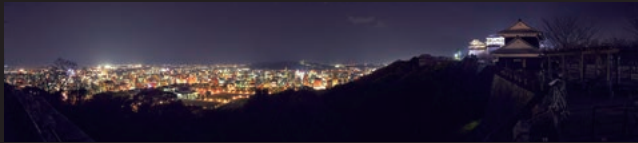
松山城内外に設置してある専用ARマーカーにスマートフォンをかざせば迫力ある動画を見ることができます!!



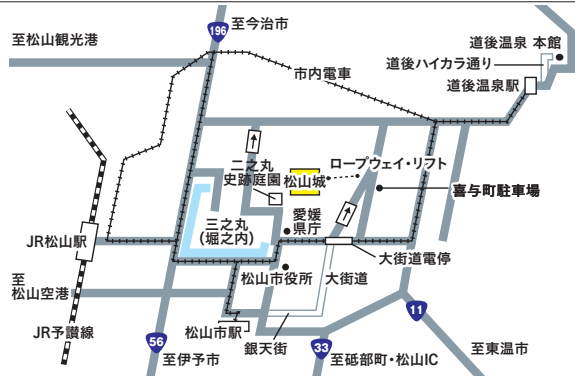
ダウンロードはこちらから↓↓↓

天守最上階からの360度の大パノラマ

松山城からの眺望は瀬戸内海や松山平野を広く見渡すことができ、「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で一つ星を獲得しています。



交通アクセス



松山空港から	リムジンバスで約30分 →[大街道]下車徒歩5分
松山観光港から	[高浜駅行き]観光港連絡バスで約2分 →[大手町駅行き]郊外電車で約19分 →[大街道行き]市内電車で約12分 →[大街道]下車徒歩5分
JR松山駅から	[道後温泉行き]市内電車で約10分 →[大街道]下車徒歩5分
松山市駅から	[道後温泉行き][環状線大街道方面行き] 市内電車で約6分→[大街道]下車徒歩5分
松山ICから	国道33号線経由 約20分

お問い合わせ

松山城関連施設 指定管理者

株式会社レスバスコーポレーション
松山城総合事務所
〒790-0004
愛媛県松山市大街道三丁目2-46
TEL:089-921-4873
FAX:089-934-3417



<https://www.matsuyamajo.jp/>

令和7年1月(2025)現在

日本語 JAPANESE

Matsuyama castle

Matsuyama castle was begun to build by Yoshiaki Kato in 1602.
It is one of major castles which stand on a hill in the plains of Japan.



国指定史跡

現存12天守
日本100名城
美しい日本の歴史的風土100選

営業案内

■営業時間

区分	期間	営業時間
ロープウェイ 10分ごと運行	2月～7月・9月～11月	8:30～17:30
	8月	8:30～18:00
	12月～1月	8:30～17:00
リフト 雨天時運休	通年	8:30～17:00
天守	2月～7月・9月～11月	9:00～17:00
	8月	9:00～17:30
	12月～1月	9:00～16:30
本丸広場 無料開放	4月～10月	5:00～21:00
	11月～3月	5:30～21:00

※リフトにつきましては、未就学児はご利用いただけません。
※天守入場は営業終了時間の30分前までです。
※天守のみ12月第3水曜日が定休日です。

■料金表

□大人…13歳以上(中学生以上)
□小人…12歳以下(未就学児は保護者1名につき2名まで無料)
※団体割引利用時は適用されません

区分	普通料金 (個人)	普通団体割引		
		25人以上/1割引	50人以上/2割引	100人以上/3割引
総合券 往復券+観覧券	大人 1,040円	940円	840円	740円
	小人 420円	390円	340円	310円
ロープウェイ リフト往復券	大人 520円	470円	420円	370円
	小人 260円	240円	210円	190円
ロープウェイ リフト片道券	大人 270円	250円	220円	190円
	小人 140円	130円	120円	100円
天守観覧券	大人 520円	470円	420円	370円
	小人 160円	150円	130円	120円

※団体割引は、25名以上に適用します。引率者として、25名につき1名無料となります。
※学生団体割引・小人団体割引もごさいます。割引率が異なりますので、詳細は松山城総合事務所までお問い合わせください。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持者及び介助者1名は、手帳をご提示いただければ無料になります。なお、これらの手帳所持者が車椅子をご利用される場合は、介助者3名まで無料となります。
※松山市在住の65歳以上の方は、住所と年齢を確認できる公的証明書(運転免許証など)をご提示いただければ無料となります。

本丸地図・
建造物一覧

重要文化財

- 1 天守
- 2 三ノ門南櫓
- 3 二ノ門南櫓
- 4 一ノ門南櫓
- 5 乾櫓
- 6 野原櫓
- 7 仕切門
- 8 三ノ門
- 9 二ノ門
- 10 一ノ門
- 11 紫竹門
- 12 隠門
- 13 隠門続櫓
- 14 戸無門
- 15 仕切門内堀
- 16 三ノ門東堀
- 17 筋鉄門東堀
- 18 二ノ門東堀
- 19 一ノ門東堀
- 20 紫竹門東堀
- 21 紫竹門西堀

復興建造物

- 1 小天守★
- 2 筒井門★
- 3 太鼓櫓★
- 4 天神櫓南堀
- 5 天神櫓西折曲堀
- 6 馬具櫓
- 7 南隅櫓★
- 8 乾門西堀
- 9 天神櫓
- 10 筋鉄門★
- 11 多聞櫓★
- 12 北隅櫓★
- 13 筒井門東続櫓★
- 14 筒井門西続櫓★
- 15 翼櫓
- 16 翼櫓西堀
- 17 乾門東続櫓
- 18 太鼓門★
- 19 太鼓門南続櫓★
- 20 太鼓門北続櫓★
- 21 太鼓門西堀
- 22 乾門
- 23 乾門東続櫓東折曲堀
- 24 良門
- 25 良門東続櫓
- 26 井戸
- 27 十間廊下★
- 28 玄関★
- 29 玄関多聞櫓★
- 30 内門★

登録有形文化財Ⅱ★

令和7年1月(2025)現在



ご案内

- ロープウェイ・リフト降車場所(長者ヶ平)から天守入口まで徒歩約10分かかります。
(各登城道からは歩いて20～30分です)
- 天守内にお手洗いはありませんので、本丸・売店横のお手洗いをご利用ください。
- 天守観覧を含む観光時間は、1時間30分程度必要です。
- 登城道は、車両(バイク・自転車含む)の通行はできません。



[ロープウェイ]
所要時間: 約3分



[リフト]
所要時間: 約6分

STAMP
松山城

日本100名城スタンプは天守きっぷ売場横(山頂)に設置しています。

石 垣

松山城の石垣は、初代城主の加藤嘉明によりほとんどが築かれている。特に本丸の高さ17mを超える石垣は壮大で、守りの目的を超えた芸術性も楽しめる。



二種類の積み方が混在する石垣：切込ハギ(左)と打込ハギ(右)

石垣の加工は、ほとんどのものが石をある程度加工して積み上げる「打込ハギ」で、一部、石同士が密着するように加工する「切込ハギ」が用いられている。本壇東側の石垣は、天守再建の際に一部を積み直したため、右側が時代の古い打込ハギ、左側が新しい切込ハギとなっている。

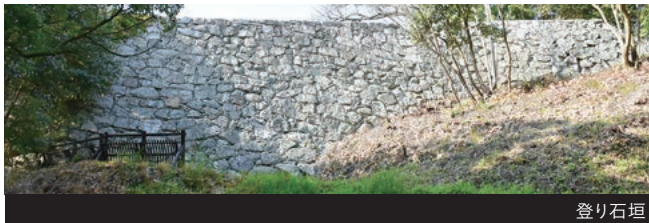


屏風折の石垣

松山城の本丸の特徴として「屏風折」の石垣があげられる。ジグザグに折れ曲がった組み方の石垣で、折れ目を増やすことで強度が増すと同時に、敵を二方向から攻撃できるため、側面を突いたり、石垣に張り付いた敵を狙ったりできるなど、城の防御においても重要な役割を担っている。



迷路のような石垣の重なり

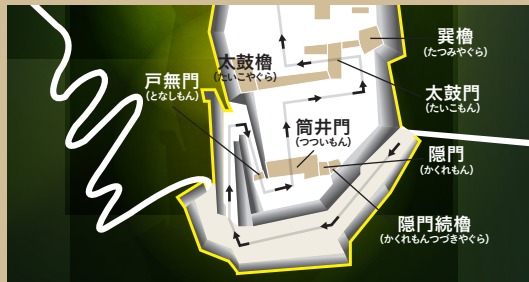


登り石垣

登り石垣は、山腹から侵入しようとする敵を阻止するために、ふもとの二之丸と山頂の本丸を山の斜面を登る2本の石垣で連結させたもの。豊臣秀吉の朝鮮出兵の際、倭城築城で採られた防備手法といわれている。松山城では南登り石垣がほぼ完全形で現存しており、県庁裏登城道や三之丸(堀之内)から見ることができる。

大手（おおて）

正面から敵を防ぐ



城の表側、本丸大手は敵の侵入に対して厳重な備えがなされている。本丸最大の門である筒井門には、奇襲用の隠門という巧妙な罠が仕掛けられ、その先には太鼓櫓・太鼓門・翼櫓等が一線に連なり、多数の狭間や石落を備えて待ち構えている。太鼓櫓と太鼓門との間にある24.41mの渡堀には狭間21か所、石落2か所が設けられている。



戸無門(左)・筒井門(右)

戸無門は、大手入口に現存する高麗門。当初から門扉がないので戸無門と呼ばれる。敵を筒井門へ誘い込むため戦略的な意味合いで設置したとみられる。

筒井門は、正木城から移築されたとされる本丸最大の門。大手の固めを構成する重要な櫓門で、城内で最も重要かつ堅固な防衛線。

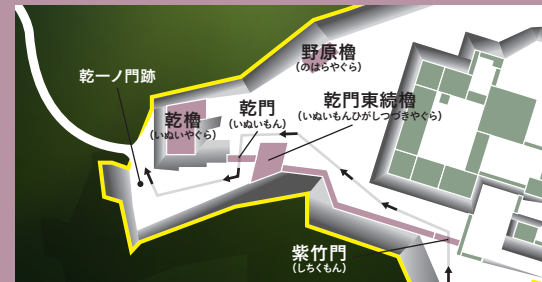


隠門続櫓(左)・隠門(右)

隠門は筒井門の奥の石垣の陰に隠された、埋門形式の櫓門で、戸無門から筒井門に迫る敵の背後を急襲する構えとなっている。脇戸を持たず、扉の横板張りの中に潜戸を仕込むなど規模は小さいが、豪放な構えで、続櫓外部の下見板張りや、格子窓形式の突揚戸などとともに、築城当時の面影を見ることができる。

搦手（からめて）

天守裏手を守る！



野原櫓

本丸北側を防衛する重要な櫓である野原櫓は、日本で唯一現存する望楼型二重櫓で、乾櫓と共に城内最古の建造物の一つと考えられている。建物の上に物見(望楼)を載せた古い形式で、天守の原型ともいわれている。



乾門(左)・乾門東続櫓(右)

城の裏側、本丸搦手方面の出入口である乾門は、乾門東続櫓や乾櫓と共に堅固な防衛線を構成する。乾門を出た先には搦手防衛の第一線として乾一ノ門があり、現在は礎石と石垣が残っている。



乾櫓

乾櫓は築城当初より現存する二重櫓で、本丸の乾(北西)の隅にある鈍角の石垣の上に建っている。乾門や乾門東続櫓、筒井門と共に加藤嘉明の旧居城である正木城から移築されたと伝わる。

城の最終防衛ライン！

天守などの重要な建造物が集中する本壇。本丸広場より約8m高い石垣を築き、出入口は1か所しかない。二方向に分かれる進入路や、通路を直角に折り曲げて四角く区切った空間「枳形」を設けるなど、防御は強固である。



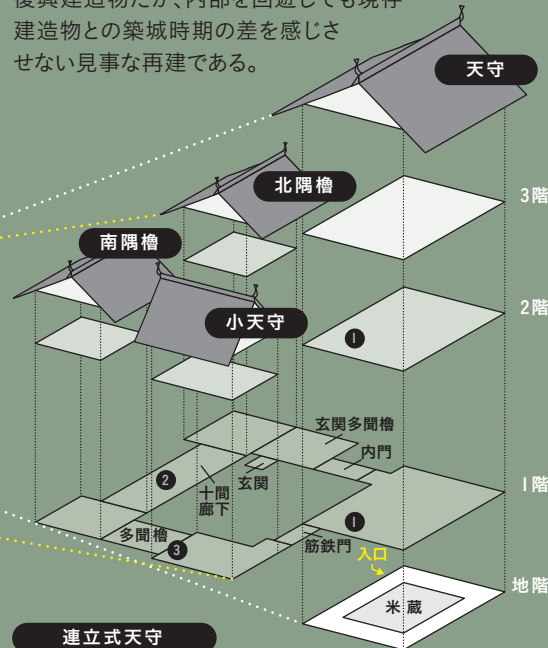
本壇最初の門、一ノ門。扉の上下が縦格子になっており、外をのぞきることができる。形式は上方からの攻撃が容易な高麗門。一ノ門と二ノ門の間は枳形になっており、門前後を四方から攻撃できる構造になっている。



本壇の鬼門（北東隅）に建つ天神櫓は、城の安泰を祈り久松松平氏の祖先神である天神（菅原道真）を記ったのでこの名がある。西妻側の間口を開放するために、格子の蓐戸が使われている。

天守徹底解剖！

天守は三重三階地下一階の層塔型天守で、黒船来航の翌年落成した江戸時代最後の完全な城郭建築。また現存12天守の中で唯一、築城主として瓦に「葵の御紋」が付されている。天守の形式は連立式で、連結した建造物はすべて昭和43年の復興建造物だが、内部を回遊しても現存建造物との築城時期の差を感じさせない見事な再建である。



連立式天守

天守の構成分類の一つで、天守・小天守・櫓を四方に配置し、渡櫓でつなぐ形式。建物で囲まれた中庭ができるのが特徴で、防御力が高く、天守防衛の究極の姿であるともいわれている。



①VR体験コーナー



②刀の重さ体験

城内には、武具甲冑、歴史資料の展示のほか火縄銃体験、刀の重さ体験や攻城戦を楽しめるVR体験コーナーもある。（中止の場合あり）



③大工の落書き

平成の大規模改修時に見つかった下見板の落書き。天守再建時（1848～54年）のものと推測される。袴を着ていることから作事奉行の似顔絵かもしれない。

松山城沿革

松山城は、標高132mの勝山山頂に本丸、西山麓に二ノ丸（二之丸史跡庭園）や三之丸（堀之内）を置く連郭式平山城で、本丸の中枢である本壇には連立式天守がそびえる、広大な城構えである。

創立者は、賤ヶ岳の七本槍の一人としても有名な加藤嘉明。慶長5年（1600）関ヶ原の戦いで成功を認められて20万石となった嘉明は、居城を正木城（愛媛県松前町）から道後平野の中央にある勝山に移し、この地を「松山」と命名した。

着工から25年、寛永4年（1627）松山城の完成を目前にして嘉明は会津へ転封となる。代わって入封したのは蒲生氏郷の孫・蒲生忠知。二之丸を完成させたが、同11年8月、参勤交代の途中の京都で病没し、嗣子なく断絶した。

寛永12年（1635）7月、伊勢桑名城主・松平定行が伊予松山15万石に封じられた。定行は寛永16年から3年をかけて本壇を改築し三重の連立式天守を築造した。

天明4年（1784）9代定国のとき天守が落雷で焼失。すぐに復興許可は下りたものの、財政難などにより工事は難航し、12代勝善の嘉永5年（1852）によりやく竣工、安政元年（1854）落成式典が盛大に行われた。現在の天守はこのときのもので、幕末に造られたにもかかわらず創建時の桃山文化様式が見事に再現されている。

明治維新後は、公園として整備・活用された。昭和に入ってから放火や戦災により櫓など一部が焼失したが、昭和41年（1966）から全国にも例を見ない総木造による再建が進められ、現在は重要文化財21棟を含む51棟が建ち並び、往時の姿を取り戻している。



久松家
（皇梅鉢）



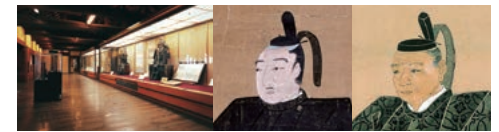
松平家
（三つ葉葵）



蒲生家
（左三ツ巴）



加藤家
（蛇の目）



蒲生忠知肖像画

加藤嘉明肖像画

（所蔵先：徳島神社、甲賀市水口歴史民俗資料館提供）

慶長7年（1602）

城主／加藤嘉明（禄高20万石）
伊予正木城主・加藤嘉明が築城開始、翌年正木城より移る。
寛永4年会津40万石に転封

寛永4年（1627）

城主／蒲生忠知（禄高24万石）
蒲生氏郷の孫・忠知が出羽上山より移封。二之丸完成。寛永11年逝去、嗣子なく断絶

寛永12年（1635）

城主／松平定行（禄高15万石）
徳川家康の甥・定行が伊勢桑名より移封。以後、15代234年にわたって松平氏の治世が続く。寛永19年本壇を改築

天明4年（1784）

城主／松平定国
天守落雷で焼失

安政元年（1854）

城主／松平勝善
天守再建落成（現存）

明治元年（1868）

城主／松平勝成
松平姓を返上し旧姓の久松となる

明治2年（1869）

版籍奉還、明治3年三之丸焼失、同5年二之丸焼失

大正12年（1923）

旧藩主家当主・久松定譲伯爵より城郭寄贈、松山市の所有となる

昭和8年（1933）

放火により小天守・南北隅櫓・多間櫓など焼失

昭和20年（1945）

太鼓門・乾門など戦火のため焼失

昭和25年（1950）

天守など21棟が国の重要文化財となる

昭和43年（1968）

小天守・南北隅櫓・多間櫓・十間廊下など木造で復興。以後、平成2年まで門や櫓等の木造再建が進む

平成18年（2006）

天守など7棟の保存修理工事完了

令和元年（2019）

小天守ほか8棟が国登録有形文化財に登録

令和4年（2022）

筒井門ほか2棟が国登録有形文化財に登録

令和6年（2024）

太鼓櫓ほか3棟が国登録有形文化財に登録

